

平成31年度埼玉県学力・学習状況調査の結果について

1 結果概況

「内容別の主な結果」の分析

- ・「組み合わせが何通りあるか求めること」について、県の平均正答率を1.8ポイント上回っている。また、「反比例のグラフを見て、yをxの式で表したものを選ぶ」ことについて、県の平均正答率を0.9ポイント上回っている。
- ・「教科の領域等」「評価の観点」「問題形式」の全てにおいて、県の平均正答率を下回っている。

「今までの学力変化」の分析

- ・学力レベルにおいて、県のレベルより低いところから、着実に伸びを見せており、県のレベルと同等まで達することができた。

「学力の伸びの状況」の分析

- ・上位層、中位層、低位層のいずれの層の生徒も学力を伸ばしている。特に上位層、低位層の伸びが見られる。

2 内容別の主な結果

向上した
変化なし

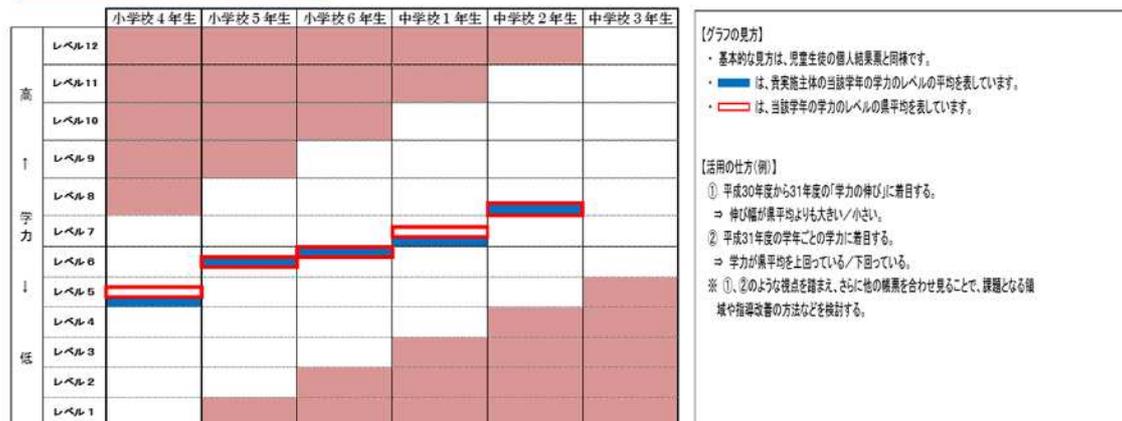
低下した

同一集団 の 成績推移		平成29年度 小学校6年生			平成30年度 中学校1年生			平成31年度 中学校2年生			経年変化	
		学力レベル・全体正答率			学力レベル・全体正答率			学力レベル・全体正答率			全体正答率	
		草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	前年度の 県との差 の比較	
		6-A	6-A	0	7-C	7-B	-1	8-C	8-C	0	0.2	
		61.5	62.3	-0.8	56.1	58.1	-2.0	58	59.8	-1.8		
		平均正答率(%)			平均正答率(%)			平均正答率(%)			経年変化	
		草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	草加市	埼玉県	県との差	県との差の比較	
教科の 領域等 (小学校)	数と計算	69.1	70.0	-0.9	52.0	54.5	-2.5			-	-	-
	量と測定	58.8	59.0	-0.2	63.8	65.9	-2.1			-	-	-
	図形	60.7	61.7	-1.0	54.0	54.4	-0.4			-	-	-
	数量関係	52.9	53.9	-1.0	57.0	59.6	-2.6			-	-	-
評価の観点 (小学校)	算数への関心・意欲・態度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学的な考え方	50.5	51.2	-0.7	36.1	37.8	-1.7			-	-	-
	数量や図形についての技能	66.3	66.6	-0.3	61.5	64.4	-2.9			-	-	-
	数量や図形についての知識・理解	60.5	61.8	-1.3	62.0	62.9	-0.9			-	-	-
教科の 領域等 (中学校)	数と式							57.0	59.1	-2.1	-	-
	図形							58.8	60.8	-2.0	-	-
	関数							59.9	61.3	-1.4	-	-
	資料の活用							56.1	57.8	-1.7	-	-
評価の観点 (中学校)	数学への関心・意欲・態度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方							49.5	51.7	-2.2	-	-
	数学的な技能							58.0	59.9	-1.9	-	-
	数量や図形などについての知識・理解							64.8	66.1	-1.3	-	-
問題形式	選択式	54.0	54.9	-0.9	65.3	66.7	-1.4	59.9	61.8	-1.9	-0.5	
	短答式	65.7	66.6	-0.9	51.0	53.5	-2.5	57.7	59.5	-1.8	0.7	
	記述式	58.5	57.7	0.8	28.0	28.7	-0.7	28.1	30.2	-2.1	-1.4	

3 今までの学力の変化

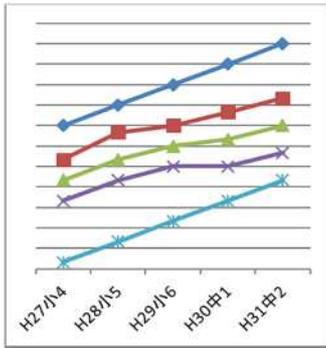
草加市

埼玉県

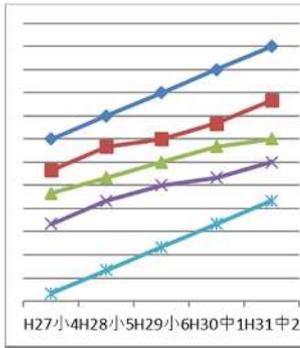


4 学力の伸びの状況

草加市



埼玉県



最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル）
 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%に当たる児童生徒が属する学力レベル）
 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル）

・指導が必要な項目

【数学的な技能】 短答式 平均正答率 草加市 32.5 埼玉県 37.1 差 -4.6 無解答率 16.4

問題の概要 仮の平均をもとに、平均を求める

出題の趣旨 仮平均をもとに、平均を求めることができる

【数学的な見方や考え方】 選択式 平均正答率 草加市 60.3 埼玉県 63.1 差 -2.8 無解答率 1.2

問題の概要 円の接線の作図の手順として、正しいものを選ぶ

出題の趣旨 円の接線の作図の方法を理解している

「数学的な技能」に関する指導について

分析

- ・ 仮の平均をもとに、平均を求めることについて、県の平均正答率より低く、無解答率が高い。

指導のポイント

- ・ 設定した目標値を基準として、その目標値からの増減を正の数と負の数をを用いて表すことにより目標の達成状況などを明確にしたり把握したりすることや、仮平均を定めて処理することにより、効率よく平均を求めるなどの活動を設定する。

「数学的な見方や考え方」に関する指導について

分析

- ・ 円の接線の作図の手順として、正しいものを選ぶことについて、県の平均正答率よりやや低い。

指導のポイント

- ・ 円の対称軸に垂直な直線を平行に移動させていくことで、接線にかくことができることを基に、円周上の点における接線の作図の方法を理解させ、このことに関連して、円の接線はその接点を通る半径に垂直であることを確認する活動を設定する。